

「新規制基準」施行3年

～川内原発直ちに止めろ、伊方原発を動かすな～

原子力規制委員会全国一斉抗議行動

日時:2016年7月8日(金) 11時～13時

場所:原子力規制委員会ビル(六本木ファーストビル)前

呼びかけ:再稼働阻止全国ネットワーク

(TEL:070-6650-5549、東京都千代田区三崎町2-6-2 ダイナミックビル5F たんぽぽ舎気付け、
info@saikadososhinet.sakura.ne.jp、http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/rn/)

福島第一原発事故が、原発が安全でないことも原発が安くないことも原発が無くても電気が足りていることも原発がゼロエミッション(クリーン)で無いことも「トイレ無きマンション」未解決も被曝労働必須も明らかし、多くの「国民」がもう原発を動かすべきでないと考えようになりました。

そんな中で、原子力規制委員会は、発足以来の3年9ヶ月の間、福島第一原発事故の検証も収束も廃炉工程も被害者救済もなおざりにしたまま、「緩やかに過ぎ合理性を欠く」(福井地裁)「新規制基準」を作り、「違法」「黒枠白抜き偽装」「耐震偽装」の甘い甘い適合性審査で、川内原発・高浜原発・伊方原発を合格に漕ぎ着けました。

さらに、規制委は、4月に熊本大地震が起こり中央構造線に火がついたにも拘らず、川内原発を止めようともせずに稼働を容認し、高浜原発3・4号機は司法により稼働を差し止められていますが、伊方原発3号機の6月中の燃料装填と7月の再稼働を許そうとしています。また、6月20日には高浜1・2号機の20年延長を認可して老朽原発の60年稼働への道筋をつけました。

このような日本の新たな規制行政下での再稼働推進は、地球上の総ての命への冒瀆です。



原子力規制委員会ビル(六本木ファーストビル)前
港区六本木1丁目9番9号

(<http://www.nsr.go.jp/nra/map.html>)

東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」から
「泉ガーデンタワー」の後ろ徒歩5分
日比谷線「神谷町駅」徒歩8分

私たちはこれらのことを許すことができません。
再稼働反対・脱原発を訴える多くの皆さん、今こそ
抗議の声を規制委にぶつけましょう。

「新規制基準」施行3周年(7月8日)に合わせて
、全国の原発現地の人たちとともに、原子力規制委
員会を厳しく責めましょう。平日の昼休みですが万
障繰り合わせて、原子力規制委員会が入っている六
本木ファーストビル前にお集まりください。



既存原発を稼働させるための「新規制基準」

東電福島第一原発事故検証せずに10カ月で作成

「電源車、ポンプ、ドリル」を買えばいい！（川内博史さん）

「緩やかに過ぎ」「合理性を欠く」世界最低水準！

（耐震対策） 福島第一原発（イチエフ）事故は近くに活断層があったから起こった訳ではない。東北地方太平洋沖地震は、太平洋プレートと北アメリカプレートの境界域（日本海溝付近）における海溝型地震だ。一方、日本には既に約2000の活断層が知られている中で、発見されていない活断層が4000近くあると言われ、日本中のどこでも直下型大地震が起り得る。それゆえ、2005年以後10年足らずの間に4つの原発に5回にわたり想定した地震動を超える地震が到来している。例えば、2007年7月の新潟県中越沖地震では柏崎刈羽原発で最大加速度2300ガルを、岩手・宮城内陸地震では4022ガルを記録している。川内・高浜・伊方の原発の基準地震動620ガル～700ガルはあまりに小さすぎる。

イチエフ事故で地震による配管破断があったかどうかを検証するとともに、より多くの地震学者の知見を取り入れて基準地震動の決定方法を見直すべきだ。地震学者石橋克彦さんは以前から、前規制委員長代理島崎邦彦さんは熊本大地震後に、基準地震動の見直しを強く訴えている。

（下図は「DAYS JAPAN 2016JUN」から）

（複数基立地と同時稼働OK） イチエフ1～4号機のいずれかがより悪い状態になれば、4基とも制御できなくなった！ 原発は一基ずつ切り離して立てるべき、近接原発同時稼働は危険！

（ストレステスト無し） EU各国が既存の原発の安全性を再確認するために作り、EUで義務付けられている。原発の施設の設計に基づき、想定以上の地震や津波が来た場合に、どのくらいの事故になるかをコンピュータシミュレーションで予想する。IAEAも2011年6月にすべての国に導入することを提言。日本では、2011年秋～2012年3月の「ストレステスト意見聴取会」で、井野博満委員・後藤政志委員が大飯1・2号機再稼働に対して厳しく追及した。斑目原子力安全委員長はストレステストの2次評価までしないと安全と言えないと言った。が、「新規制基準」はストレステストを全く義務付けていない。

（コアキャッチャー不要） メルトスルーが生じた場合でも溶けた核燃料を冷却施設に導いて冷却するための装置。アレバ社の特許、EUでは義務付けられている。

（受動的安全装置不要） 単純な物理原理に基づいた安全機能をもつ特性。重大事故時に人が介在しなくても作用する。既に「受動的安全炉」が存在。

（放射能汚染水対策不要） イチエフ事故の重要な教訓である。イチエフでは今も毎日520トンの放射能汚染水が増えている、コントロールもブロックもできていない。凍土壁も不調。

（立地指針無視） 「原子炉立地審査指針」（1964年制定・89年一部改訂）は長年許可申請の最上位の審査指針で、
・十分に公衆から離れていること、
・仮想事故でも放射線災害を与えないこと、
・重大事故の際の敷地境界での積算被ばく線量が250mSv以下であることを義務付けていた。ところが、原子力規制委員会は、実質的に立地審査指針を無視している。

（米国で対応済みなのに未対応15項目）
米国で対応済みで新規制基準で未対応の事項が15項目もある（佐藤暁、「科学」2015年7月号）。

（免震重要棟無し）

イチエフ事故対応で免震重要棟の重要性を誰もが認識した。規制委は、川内も高浜も伊方も、免震重要棟無しでの稼働を容認している。

資料：日本の原発と再処理工場の基準地震動

